

乙女地区

乙女地区は町の中央西側の乙女台地を中心に位置します。

弥生時代の支石墓や古墳時代の円墳、横穴墓等が確認されており、古くから乙女台地上で人々が生活していた痕跡が認められます。中でも、乙女地区では世持道免遺跡や世持石佛遺跡、中山錦川遺跡で発掘調査が行われ、縄文時代から奈良・平安時代の様子が分かる町内でも数少ない地域です。また、台地上に立地する地形的な要因から水の確保に関するものも認められます。



126. 船津磨崖五輪塔と磨崖板碑（所在 船津区）

熊本甲佐総合運動公園の山裾の壁面に陽刻されています。

磨崖五輪塔は水輪と地輪が土砂に埋もれて全容はわかりませんが、火輪と風輪の形態から鎌倉時代後期から南北朝前期（14世紀前半）の頃のものと考えられます。

隣の磨崖板碑は、上部に阿弥陀三尊の種子を薬研彫し、その下に「諸行無常／是生滅法／生滅滅已／寂滅為樂」と刻まれています。本来は、その下には紀年銘が刻まれる可能性が高いですが、土砂に埋もれて確認することはできません。この板碑も磨崖五輪塔と同様の時期に建立されたものと考えられます。



127. 谷の観音堂（所在 船津区）

谷地区に入り、約200m西にあります。

切妻造瓦葺平入のお堂で、中の厨子には木造十一面観音菩薩立像が祀られています。厨子の内側には「開眼昭和十二年（1937）／南無妙法蓮華經／南無馬頭観世音菩薩／玉祥寺四世／義照」と記してあります。

しかし、祀られているのは十一面観音菩薩で、厨子の墨書銘にある馬頭観音菩薩と食い違っています。村人の話によると、元は山手にあったそうです。



128. 船津地藏堂（所在 船津区）

谷の観音堂から約200m西にあります。

切妻造平入のお堂で、中の厨子には彩色された木造地藏菩薩立像が祀られています。その横には朽ちた古い地藏菩薩がありますが、この地藏菩薩の由緒等は不明です。

現在は谷、迫、山口地区で守られ、船津地藏菩薩の氏子祭りは11月24日です。

なお、お堂は昭和50年（1975）5月に改修されています。



129. 船津観音堂（所在 船津区）

熊本バス船津バス停より約100m南にあります。
切妻造瓦葺妻入のお堂は、躯体がブロック造で、間口は200cm、奥行は200cmです。台座上に総高31cm、台座7cmの石造馬頭観音菩薩立像が祀られています。その顔は修復され、合掌しています。菩薩像の左には「為三界萬霊」、右には「観世音菩薩」の文字が刻まれています。



本町では江戸時代後期から明治時代初期に多くの農耕馬が飼われており、馬を家族の一員として大事に育てていたため、馬の守護仏の馬頭観音菩薩が祀られていたと考えられます。

祭日は4月18日です。

130. 迫の大乗妙典一部石塔だいじょうみょうてんいちぶせきとう（所在 船津区）

船津観音堂の北側にあります。

三基の石碑の一つは一字一石経いちじいつせききょうの碑で、台座は121cm、その上に23cmの小さな台座があり、更に137cmの「大乗妙典一部石」の文字が彫られた石碑が乗っています。側面には、この碑の発願はつがんが記してあり、天保14年（1843）に建立されたことがわかります。小石にお経の文字を一文字一文字書いたものは一字一石経と呼ばれ、室町時代から江戸時代に流行した写経の一種です。写経された小石は地面に埋められ、その上に塔が建てられています。



131. 船津六地藏（所在 船津区）

熊本バス山口バス停より約200m南にあります。

高さ200cmのうち基礎が30cm、幢身が127cmです。宝珠は後方に落ち、龕の六面にそれぞれ地藏が彫られている六地藏ですが摩耗して見えなくなっています。

六地藏は人間の六道を守護する地藏への信仰から「道」に着目して交通安全に転じた信仰です。この船津六地藏はその形状から15世紀に建立され、再度江戸時代に修復されて建立されたものと思われる。



132. 船津^{しせきぼ}支石墓(ドルメン) (所在 船津区)

船津区ハッ割周辺にあります。

これは昭和40年(1965)頃に熊本県立女子大学教授(当時)の乙益重隆氏らの現地調査によって発見された縄文時代晩期～弥生時代の前期(2000～2500年前)の墓です。支石墓(ドルメン)は死体を埋め、頭大の石を三つ置き、その上に長さ1.5[㍎]、幅1[㍎]ぐらいの石を平に置くもので、ハッ割の支石墓は南鮮式支石墓で、発見当初は十二基以上が確認され、九州では数少ない珍しい墓制として着目されました。

また、麻生原区から船津区には、縄文土器や弥生土器、石器等が多量に発見され、古くから長期間にわたって人々が居住していたことがうかがえます。



133. 山口薬師堂 (所在 船津区)

山口集会所の中にあります。

厨子は間口30.5[㍎]、奥行20[㍎]、高さ92[㍎]、屋根幅64[㍎]で、総高58[㍎]、像高40[㍎]、台座18[㍎]の両手が欠損した木造薬師如来立像が祀られています。この薬師如来像は全体的に黒ずんでおり、由緒等は不明です。

祭日は1月12日です。



134. 山口の猿田彦大神 (所在 船津区)

山口集会所横にあります。

明治14年(1881)の建立で、高さ114[㍎]、最大幅94[㍎]、最大厚20[㍎]、台座は二段で上段22[㍎]、下段95[㍎]です。



135. 山上神社（所在 船津区）

山口集会所から 60m 南西にあります。

本殿には中央に厨子があります。本殿と拝殿を結ぶ通路の両側には随神像が左右一体ずつ祀られています。どちらも椅子に腰かけて右足を上げて座っています。左の随神像は総高 75cm 幅 42cm、椅子の高さは 19cm です。右の随神像は総高 85cm、幅 40cm、椅子の高さは 22cm です。

山上神社は「山ん神さん」とも呼ばれ、昭和の初めの頃までは女人禁制の場所でした。『肥後国誌』に記載されている「権現宮 山神宮 若宮」の山神宮はこの山上神社であると比定されます。



136. 船津の猿田彦大神（所在 船津区）

船津公民館から古閑地区へ約 400m の共同墓地入口にあります。

明治 14 年（1881）の建立で、高さ 150cm、最大幅 55cm、最大厚 22cm、台座は二段で上段 23cm、下段 55cm です。



137. 船津阿蘇神社（所在 船津区）

船津区坊分地区から杉木立の参道先にあります。

本殿は切妻造瓦葺、拝殿は入母屋造瓦葺平入で、本殿には健甕龍命などを祀っています。拝殿には随神像が左右に並んで祀られており、文政 9 年（1826）の板木もあります

同神社は、延慶 3 年（1310）3 月 15 日に勧請され、寛永 6 年（1629）に南條左近・芦田興左衛門によって再興されたと伝えられています。

『国郡一統志』には「宮山明神」とあり、『肥後国誌』には「十二宮大明神 祭九月十九日」とあるのがこの船津阿蘇神社です。

平成 28 年（2016）熊本地震により被災しましたが、地元の方々によって修復されています。



138. 船津仏像堂（所在 船津区）

船津阿蘇神社の境内の一角に仏像堂があります。この仏像堂には、六体の仏像が祀られています。等身大の阿弥陀如来立像が二体、そして厨子には大日如来が祀ってあり、その横には三尊形式の不動明王があります。

これらの仏像の由緒等は不明です。『国郡一統志』には「船津 宮山明神 天神永照寺観音 清蓮寺阿弥陀」とあり、『肥後国誌』には「十二宮大明神社 権現宮 山神宮 若宮」とあるので、17世紀から18世紀にかけて廃寺になったと思われる、観音菩薩を祀る永照寺と阿弥陀如来を祀る清蓮寺の本尊等が、この仏像堂に合祀されているのかもしれません。

また、仏像堂に参ると頭髮が黒くなると伝えられており、地元では「くろかみさん」と呼ばれています。



139. 桜地蔵（所在 船津区）

熊本バス山口バス停より約500m北のサクラの木の下にあります。

高さ65cmの石造地蔵菩薩像です。その横には「右 堅志田」「左 中山」と刻まれ、背面には明和2年（1765）と刻まれている高さ46cmの石造道標があります。

平成20年（2008）頃までは、道標の上に地蔵菩薩が載せられていました。地元の方によると、以前は木製のお堂の中に祀られていたそうです。

この地蔵は道路の分かれ道に建てられており、道祖神信仰と結びついたものと考えられます。



140. 麻生原菅原神社（所在 麻生原区）

麻生原区内の南に位置し、杉の大樹に囲まれています。

本殿は大社造銅板葺、拝殿は入母屋造瓦葺妻入です。本殿には間口59cm、高さ132cmの厨子があり、中には台座9cm、像高43cmで衣に梅の紋様が描かれた、漆喰造りの菅原道真坐像が祀られています。

厨子の左右には高さ65cm、幅32cmで椅子に座り、片足を椅子に上げて座った随神像があります。随神像の横には高さ30cmの阿吽の狛犬があります。『甲佐町の文化財 第一集』には「寛永10年（1633）3月10日勸進」とあり、『肥後国誌』では「天満宮」と記されています。

平成28年（2016）の熊本地震により鳥居が倒壊したため修復され、令和5年（2023）に本殿の屋根が修復されました。



141. 麻生原観音堂（所在 麻生原区）

国指定天然記念物「麻生原のキンモクセイ」の隣にあります。

切妻造瓦葺妻入のお堂は、向拝が115センチ、

間口285センチ、奥行356センチで、東向きに建っています。中の厨子は間口63センチ、奥行38センチ、高さ115センチで、像高55センチ、幅23センチの木造観音菩薩坐像が祀られています。仏頭から馬頭観音か十一面観音と思われる、地元の方が衣を着せ、手編みの帽子をかぶせています。厨子の壁には「千時天保十一歳（1840）」等と墨書されています。厨子の屋根下部分は燃えて炭化しています。



142. 麻生原の猿田彦大神（所在 麻生原区）

麻生原観音堂の敷地内にあります。

明治15年（1882）の建立で、高さ125センチ、最大幅100センチ、最大厚40センチ、台座は二段で上段35センチ、下段80センチです。

平成28年（2016）熊本地震により被災しましたが、地元の方々によって修復されています。



143. 光明山 しょううれんじ 青蓮寺（所在 麻生原区）

宗派は浄土真宗本願寺派で、本尊は阿弥陀如来です。

本堂は瓦葺入母屋造で、縦6間、横7間で、御拝口があり、本堂の向拝には壮麗な彫刻が施されています。

『甲佐町史』によると、伊佐三郎助が真宗に帰依し、名を慶宅と改めて一字を建立し、青蓮寺と号した、とあります。

なお、『新甲佐町史』によると、寛文2年（1662）開基とあります。



144. 麻生原伊勢堂（所在 麻生原区）

光明山青蓮寺の敷地内にあります。

切妻造銅板葺平入のお堂は、間口180㍺、奥行180㍺、向拝49㍺です。中には間口44㍺、奥行34㍺、高さ83㍺の木製厨子があり、像高25㍺、台座7㍺の天照大神の木造立像が祀られています。

祭日は2月22日です。



145. 麻生原天神社（所在 麻生原区）

麻生原公民館の横にあります。

石室は高さ150㍺、幅40㍺、土台の高さは60㍺で、裏には「明治八年（1875）」と刻まれています。中には総高12㍺、像高11㍺の一木造の天神坐像が祀られています。

鳥居は令和5年（2023）に新設されました。

祭日は12月15日です。



146. 麻生原金八（水神）（所在 麻生原区）

甲佐大橋を乙女方面に渡った道沿いの右上方にあります。

一辺が230㍺の玉垣で囲まれており、中央には高さ90㍺、最大幅70㍺、厚さ60㍺の砂岩が祀られています。

この金八水神には緑川の両岸で様々な伝説や民話等があります。左岸では、「首を切られて死んだ金八が可哀そうだと麻生原の人々が金八の魂をなぐさめ水神さんとして祀ったところ、それ以降、麻生原区の村からは水に溺れて死ぬ者がいなくなりました。それは金八の家来である河童たちが村の人たちを守ってくれるから」と伝わっています。

祭日は7月1日です。



147. 塔の木さん古墳（旧：麻生原塔ノ木古墳）（所在 麻生原区）

県道今吉野甲佐線とマミコウロードの交差点から約150メートル南東の県道今吉野甲佐線沿いにあります。

塔の木さん古墳は、北側が削平されていますが、高さ約2.5メートル、長さは20メートルの墳丘が残っており、復元すると、直径約30メートルの円墳になると推定されます。また、西側には大石が露出しており、これは古墳の側面に入口を設けた横穴式石室の一部とみられ、6世紀頃に造られたものと考えられます。



148. 世持・石佛遺跡と世持・道免遺跡（所在 世持区）

両遺跡は、県営乙女大沢水地区農免農道整備事業に伴って、平成15年度から平成16年度に甲佐町教育委員会によって発掘調査が実施されました。

世持・石佛遺跡では、1,000平方メートルが発掘調査され、縄文時代の埋甕や近世の溝等が確認されました。中でも、埋甕は埋められた甕の中に更に1点の土器が伏せて埋納された状態で出土しました。

世持・道免遺跡では、2,267平方メートルが発掘調査され、溝や炉跡などが確認されています。

両遺跡からは多くの縄文時代晩期の土器が出土しており、両遺跡の周辺に縄文時代の集落があったと考えられます。



149. 世持沢水池（所在 世持区）

世持区の西側にあります。「沢水池」と書いて「そつつあんいけ」と呼ばれています。

世持区が所在する乙女台地には大きな川がなく、昔から農業用水の確保に苦勞していました。区の水源としては、雨水を蓄えた二つの溜池と「沢水池」と呼ばれる湧水池の水が主となっています。この「沢水池」は、世持区から南三箇区・中山区

を経て、熊本市南区域南町の浜戸川へと流れる錦郷川の源流となっており、池の近くには「水神様」を祀る石室があります。石室は台座が2段（上段22センチ、下段30センチ）あり、間口50センチ、奥行42センチ、高さ85センチです。水神は舟形光背を負い、像高37センチ、最大幅30センチです。

祭日は4月1日です。



150. 世持地藏堂（所在 世持区）

錦郷川の源流である沢水池より川沿いに約 300 ㍎下った所にあります。

切妻造瓦葺平入のお堂は、間口 180㍎、奥行 240㍎、向拝 70㍎で南向きに建っています。中の厨子は昭和 40 年代にサクラの木で造られたもので、間口 58㍎、奥行 39㍎、高さ 85㍎です。中には台座 10㍎、像高 40㍎の木造地藏菩薩坐像が祀られており、右手は欠損しています。また、像容不詳の総高 48㍎、最大幅 20㍎の仏像も祀られています。



151. 世持妙見社（所在 世持区）

世持公民館から約 200㍎南の錦郷川右岸にあります。

本殿は切妻造瓦葺、拝殿は入母屋造瓦葺平入です。本殿の奥には、間口 20㍎、奥行 45㍎、高さ 90㍎の厨子があり、中には総高 40㍎の彩色された木造女神立像が祀られています。通常は拝観窓からの拝観となり、女神像の全体像は見ることはできません。

たかみむすびのかみ
祭神は高御産巢日神です。『国郡一統志』には「妙見」、『肥後国誌』には「森妙見社」と記されています。祭日は 10 月 18 日です。



152. 虚空蔵菩薩（こくんとさん）（所在 世持区）

世持妙見社傍の個人宅にあります。

虚空蔵菩薩がなまって「こくんとさん」と呼ばれるようになったと思われます。

阿蘇溶結凝灰岩製（②は馬門石）の石造物が四基で、左から①高さ 50㍎、最大幅 35㍎の宝塔塔身、②高さ 26㍎、最大幅 21.5㍎の五輪塔の空風輪、③高さ 56㍎、最大幅 36㍎の宝塔塔身、④高さ 40㍎、最大幅 31㍎の宝塔塔身です。②の五輪塔の空風輪は逆さまに置かれ、石材は宇土市網津町馬門付近で産する赤みを帯びた阿蘇溶結凝灰岩で、通称「馬門石（阿蘇ピンク石）」と呼ばれるものです。宝塔の形態から 13 世紀から 14 世紀半ば頃の建立とみられます。



153. 世持天神社（所在 世持区）

世持公民館の裏に建っています。

本殿の中には二つの厨子があり、右の厨子は間口45㍺、奥行29㍺、高さ54㍺です。中には円形の青銅製鏡が祀られており、大きさは高さ18㍺、幅15㍺です。左の厨子は間口25㍺、奥行19㍺、高さ41㍺で、像高21㍺の木造女神立像が祀られています。

『国郡一統志』には「天神」、『肥後国誌』には「天満宮」と記されています。17世紀から18世紀の間に名称が「天神社」から「天満宮」に変わっています。

祭日は11月4日です。



154. 世持地藏尊（所在 世持区）

世持区から津志田区と南三箇区への分岐となる三叉路の角にあります。

お堂の中の石室は、間口52㍺、奥行43㍺、高さ117㍺で、総高35㍺、像高28㍺の石造地藏菩薩立像は高さ60㍺、幅30㍺の舟形光背を負っています。

舟形光背の右側には、「法界 子時 明和元 (1764) 申 世持村萬霊 十二月九日 願主平五良」と彫られています。



155. 荒人神社（旧：三賀神社）（所在 南三箇区）

南三箇区中央にあります。

拝殿入口の梁には梅鉢の紋があり、菅原道真が祀られています。拝殿は入母屋造瓦葺平入で御拝口があり、本殿は神明造です。本殿には同じ大きさの厨子が四個並んでいます。厨子にはそれぞれしめ縄があります。

由緒等は不明ですが、土地の守り神の産土神が祀られ、村の氏神と意識されていました。『肥後国上益城郡神社明細帳』には、南三箇に「日下神社、荒人神社、水天神社」と記載されています。この荒人神社が三賀神社です。天神森が三賀神社に合祀されています。

平成28年（2016）熊本地震により被災しましたが、地元の方々によって修復されています。

祭日は11月2日です。



156. 南三箇水天宮（所在 南三箇区）

荒人神社から約 100m 東の南三箇公民館の横にあります。

慶応 4 年（1868）に建立された石室の水天宮です。水天宮とは、水と子供を守護し、水難除けの信仰で、漁業、海運、農業、水商売、また安産、子授け、子育てなど広く厚く信仰されています。

祭神は不明で、祭日は 3 月 15 日です。



157. 南三箇観音堂（所在 南三箇区）

荒人神社から約 70m 西にあります。

切妻造瓦葺妻入コンクリートブロック造のお堂は、間口 162cm、奥行 120cm、高さ 192cm で、中の厨子は間口 65cm、奥行 35cm、高さ 85cm です。菩薩像は総高 59cm、像高 36cm の木造十一面観音菩薩坐像が祀られています。舟形光背を負い、彩色されていたと思われますが、現在は剥落し、左手が持つ花瓶と頭部正面の阿弥陀如来の化仏等が欠落しています。横には、仏像であったと思われる木の塊があります。

祭日は 11 月 18 日です。



158. 南三箇阿弥陀堂（所在 南三箇区）

荒人神社から約 300m 南の山裾にあります。

切妻造瓦葺平入のお堂は、間口 210cm、奥行 183cm です。中には蓮華座に総高 76cm、像高 40cm で、両手で定印を結ぶ木製阿弥陀如来坐像が祀られています。頭頂の肉髻は消失しており、白毫（眉間の珠）も破損しています。定印とは、「心静かに精神を集中している」ことを象徴する印契で、阿弥陀の定印は、両手掌を仰いで右手を上重ね、両人差し指を立てて相背け、両親指をその端に横たえています。

本町では円福寺跡阿弥陀如来坐像（町指定文化財）や田代の阿弥陀如来像等が定印を結んでいます。



159. 南三箇六地藏（所在 南三箇区）

南三箇区南側の山裾にあります。

この六地藏は、享保17年（1732）の建立で、破損箇所が少ないものです。総高340㌢の内、土台が40㌢、基礎が20㌢、幢身が115㌢あります。

碑文には「當邑信善男子許多人合志再興之」また、正面には「三界萬靈有無二縁等」と刻まれています。

村の男性が志を合わせて世にあるあらゆる霊を供養するために六地藏を再建立したものです。

平成28年（2016）の熊本地震により倒壊しましたが、区の人々により再建されました。



160. 明神堂（所在 南三箇区）

荒人神社からフルーツロードに向うと、左手の土手上にあります。

お堂の正面の額には「日下大明神^{くさか}」と記されています。

日本姓氏語源辞典には、久佐賀は「日下の異形。日下部氏の後裔と伝える。」とあります。「久佐賀」の姓は全国的には珍しいようですが、南三箇区には一番多くある姓で、その由緒等は不明です。日下大明神は久佐賀の氏神を祀る神社と思われます。



161. 南三箇大平観音、水神（所在 南三箇区）

熊本南カントリークラブの中にあります。

ゴルフ場の一角には、神木と共に三基の石碑が並んでいます。その一つの石室には、嘉永2年（1849）に建立された石造十一面観音菩薩立像が祀られています。

この大平観音の横には、水を湛えた大平堤^{たた}があります。この堤は江戸時代末期の三賀村（現在の南三箇区）で、重い年貢に苦しみながらもそれを乗り越えた村人たちの歴史そのもののものです。収穫を感謝すると共に再び決壊しないようにと堤防上に建立されたのが、この大平十一面観音です。その後も昭和から平成に至るまで改修が続けられました。南三箇区の歴史と重なるのが大平堤であり、大平観音です。

なお、大平観音はゴルフ場内にあり、通常は見学できません。



162. 中山の板碑（所在 中山区）

県道今吉野甲佐線沿いの中山入口看板近くの公園化された一角に移転されています。

安山岩製で高さ 87センチ、最大幅 58センチ、最大厚 18センチです。上部に阿弥陀如来の種子が彫られており、下部に「道廣禪定門／奉造立石塔一基／妙香禪定尼／干時天文十四己酉年十月十八日」と刻まれています。道廣禪定門・妙香禪定尼夫婦が天文 14 年（1545）10 月 18 日に建立した逆修供養板碑です。

天文 14 年（1545）より 2 年前の天文 12 年（1543）には阿蘇惟前が阿蘇惟豊に攻められ、堅志田城（美里町・国史跡）が落ち、惟前は八代の相良長唯のもとに身を寄せています。この頃は、矢部大宮司に味方する^{もしゅう}衰衆と呼ばれる小武士団との争いが激化した時期と考えられます。このような時代背景で建立された生前供養塔です。



163. 中山菅原神社（所在 中山区）

中山公民館の約 30 メートル北東にあります。

本殿には間口 70センチ、奥行 45センチ、高さ 100センチの観音開き戸の厨子があり、中には木造坐像二体が祀られています。右は像高 32センチ、幅 20センチの菅原道真で、左は像高 27センチ、幅 20センチの女神です。二体は高さ 6センチの同一台座に祀られています。

『国郡一統志』によると、中山村に「天神 地蔵」との記載があります。「天神」は中山菅原神社と思われます。建立時期は不明ですが、現在の社殿は掲示物から平成 13 年（2001）に再建されています。また、平成 28 年（2016）熊本地震により被災しましたが、地元の方々によって修復されています。

祭日は 11 月 5 日に宮座が行われています。



164. 中山むさしさん（所在 中山区）

中山菅原神社境内の御神木の根元にあります。

高さ 70センチ、最大幅 40センチの自然石が祀られています。名前や由来、建立時期等については地元の方もご存知ないそうです。「中山菅原神社の祭日（11 月 5 日）には、6 人分のご飯と水を供えている」とのことです。



165. 中山地藏堂（所在 中山区）

中山公民館より約50㍍南西の道路脇にあります。
切妻造銅板葺平入のお堂は、建立時期は不明ですが、堂内の棟板によると、元々は現在地よりも約15㍍南の舞妓橋近くにあったものを道路改修に伴い、堂内の棟板によると平成12年（2000）に現在地に移設再建されています。

お堂内には三体の仏像が祀られており、中央は総高53㍍、像高41㍍の木造地藏菩薩立像です。右手に持っている錫杖は、上部の錫輪部が欠損しています。右は高さ46㍍、幅23㍍、奥行20㍍の石造仏像で、像名や作成時期等は不明です。左は総高50㍍、像高35㍍、台座6㍍の舟形光背を負う石造千手観音菩薩立像で、作成時期等は不明です。



166. 中山横穴群（所在 中山区）

中山区内を東西に流れる錦郷川に架かる、威竜橋と道免橋間の右岸崖面にあります。

正式な調査が実施されていないため詳細は不明ですが、横穴は阿蘇溶結凝灰岩の崖面に掘り込まれており、高さ1.5㍍、奥行2～3㍍で正面奥と左右両側の屍床に遺体が安置されていたと考えられます。

作成時期は古墳時代後期～終末期の今から1,400～1,500年前と推定されます。

この横穴群は隣接する天ノ平横穴群（熊本市南区城南町）へと連なっています。また、周囲では県道今吉野甲佐線道路工事に伴う発掘調査（平成17～20年）で旧石器時代から平安時代の住居跡や石器、縄文土器等の様々な遺物が確認されました。



167. 中山錦川遺跡（所在 中山区）

本遺跡は県道今吉野甲佐線緊急地方道路整備事業に伴って、平成17年（2005）6月から平成20年（2008）3月に熊本県教育委員会によって発掘調査が実施されました。

発掘調査の結果、縄文時代の調理痕跡と思われる屋外炉や集石遺構、狩猟に使用した落とし穴が確認されました。また、古墳時代の集落跡も確認され、乙女台地の崖面に造られた中山横穴墓群を築いた人々の集落の可能性が考えられます。さらに、奈良時代から平安時代の集落も確認されており、近隣に陣内廃寺（熊本市南区城南町）があることから、陣内廃寺に関連する集落と考えられます。



168. 津志田菅原神社（所在 津志田区）

津志田区の鶴地区にあります。

本殿は流造トタン葺で、拝殿は入母屋造平入です。厨子は間口 35㍺、奥行 22㍺、高さ 64㍺で、両開きの扉がつき、屋根の中央に梅の紋様があります。中には、総高 25㍺、最大幅 28㍺で、黒・青等で彩色された男神像が祀られており、衣に梅の紋様があることから、菅原道真と思われます。

祭日は 10 月 14 日です。



169. 津志田地蔵尊（所在 津志田区）

津志田菅原神社から約 100㍺西にあります。

石室の中には、高さ 58㍺、幅 32㍺、厚さ 15㍺の台石に、高さ 49㍺の陽刻された石造地藏菩薩立像が祀られています。地藏の右側には、宝暦 9 年（1759）と刻まれています。



170. 乙女山 光現寺（所在 津志田区）

宗派は浄土真宗本願寺派で、本尊は阿弥陀如来です。

入母屋造瓦葺妻入の本堂と切妻造瓦葺の山門と入母屋造瓦葺の鐘楼があります。

『甲佐町史』によると、元は乙女山城主北小左衛門友清の末子の鶴之助が慶円と号し、その後七代の孫慶伝が寛文元年（1661）に現在の地に一字を建立し、光現寺と号した、とあります。また、境内の北家墓所には、初代住職の慶円の無縫塔と墓誌塔があります。

なお、『新甲佐町史』によると、貞享元年（1684）開基とあります。



むほうとう

171. 津志田八幡宮（所在 津志田区）

津志田区の字男山にあります。

承平 5 年（935）に橘能貞^{たちばなよしただ}が国家鎮護のため、男山八幡宮（京都府石清水（男山）八幡宮）の分霊を甲佐町種子川（場所不明）に建立しました。その後、平治元年（1159）に鎮西八郎為朝^{ちんぜいはちろうためとも}が「八幡宮」の額縁を奉納し、本殿を現在地に移し、地名を「男山」と呼ぶようになったとされています。

さらに寛永元年（1624）11 月に加藤忠広の命により三宅角左衛門が社殿を再興し、明治 31 年（1898）に改築されています。

平成 28 年（2016）熊本地震で本殿が被災し、修復されました。祭日は 10 月 15 日で、祭礼には南三箇区、中山区の氏子も参加します。

また、境内には菅原神社があります。この神社は、正保 2 年（1645）に八幡宮の約 50 ㍎西の天神山（現在は男山の一部）に建立され、菅原道真が祀られました。明治の初めに氏子の希望により現在地に移されています。祭日は 11 月 11 日です。

さらに、昭和 45 年（1970）10 月に熊本県緑化推進保存木に指定された「津志田八幡宮の楠」もあります。この楠は樹齢 350 年以上と推定されています。



みやけかくざえもん

172. 津志田地蔵尊（宮坂地蔵）（所在 津志田区）

津志田八幡宮鳥居の手前にあります。

石室は高さ 121 ㍎、幅 46 ㍎で、中には、高さ 62 ㍎の石造地蔵菩薩立像が祀られています。石室には「元治元年（1864）子 七月吉日 宮林／中／古小路」と刻まれています。

元々、津志田八幡宮から田んぼへ下る坂道にあったことから、「宮坂地蔵」と呼ばれています。

昭和 40 年代頃までは、7 月 24 日に地域の子ども達による地蔵まつりが行われていました。



173. 長興寺薬師堂と熊野座神社（所在 津志田区）

乙女小学校から約 400 ㍎北東にあります。

長興寺地区の山手に薬師堂と熊野座神社を合祀しています。

左は薬師堂で、厨子は間口 95 ㍎、奥行 45 ㍎、高さ 106 ㍎で、中には総高 60 ㍎、台座 15 ㍎の木造薬師如来坐像が祀られています。更に 27 ～ 40 ㍎の木造立像が十体と、像高 47 ㍎と 37 ㍎の十二神将と思われる木造坐像が祀られています。右の厨子は熊野座神社で、元は近くの山中にありましたが、平成 28 年（2016）熊本地震により社が傾いたため、このお堂に移転されたものです。厨子は五室分あり、各室に一体の神像が祀られています。



174. 長興寺跡の宝塔群 (所在 津志田区)

長興寺薬師堂と熊野座神社の堂内に二基の宝塔群があります。

共に阿蘇溶結凝灰岩製で、右は高さ 49センチ、最大幅 29センチ、左は高さ 36センチ、最大幅 27センチです。それぞれ四方の仏龕に四方仏の種子が刻まれています。四方仏は金剛界四仏で、宝塔の形態から 14 世紀半ば頃の建立と考えられます。



175. 津志田のなまず塚 (所在 津志田区)

津志田河川自然公園から約 500メートル北西の個人宅裏手の塚の上にあります。

幅 43センチ、奥行 36センチ、屋根幅 95センチの石室は高さ 40センチ、幅 90センチ、奥行 80センチの石製土台上に設置されています。中には木板材で造られた鳥居が祀られています。

なまず塚には大なまずの話があり『ふるさと民話第二集 甲佐のむかしばなし』の中に「なまず塚のはなし」が載っています。また、『肥後国誌』には「ヒナイ神」と記載されています。



176. 田口彌城天神 (所在 上田口区)

県道宇土甲佐線の津志田区と上田口区の境となる岩元地区にあります。

石室は全体の高さは 195センチ、台座は 43センチ、石室部分の間口 60センチ、奥行 45センチ、屋根の最大幅は 92センチです。中の天神は石造男神坐像で総高 57センチ、像高 45センチで、座っている丸い石に「八彌天神」と刻まれています。また、石室の脇に置かれた石碑の「文政 5 年（1822）陽無月」は三月の別名の「雛月」の当て字と思われます。『肥後国上益城郡神社明細帳』には、「田口上出口彌城神社」とあります。

祭日は 12 月 1 日です。



177. 上田口不動尊堂（所在 上田口区）

田口彌城神社の傍にあります。

ブロック積の瓦屋根切妻造平入のお堂で、片屋根の厨子があります。中には台座8センチ、像高37センチの赤や青で彩色された木造不動明王立像が祀られています。不動明王は赤や青で彩色されていたようで、赤い炎の光背を負い、右腕は欠損しています。

祭りは1月28日です。以前は約25軒で守ってきましたが、近年は住民も減少し12軒となり、2軒の受け元が持ち回りで地元のお寺から住職を招き、お酒とお茶を供えているとのこと。



178. 田口菅原神社（所在 上田口区）

上田口区の西側に位置し、五色山ごしきやまの山裾にあります。

祭神は菅原道真、配神は阿蘇十二社、北宮四座です。

『肥後国誌』には「天満宮祭り10月25日社記に云、村上帝天徳2年（958）肥前、肥後、筑前、筑後の国肥後守源師信当国益城郡乙女山（五色山）に一字を建て菅霊を祀る」と記されています。

神社の裏手は五色山（乙女山）と呼ばれ、永正14年（1517）から天文19年（1550）までの33年間にわたり田口弾正という豪族が住んでいたと伝えられる城跡があります。この田口弾正の名にちなみ、一帯を「田口」と呼ぶようになったと伝えられています。

平成28年（2016）熊本地震により被災しましたが、地元の方々によって修復されています。

祭日は10月25日です。



179. 上田口薬師堂（所在 上田口区）

田口菅原神社の拝殿左の階段を下ったところにあります。

切妻造瓦葺平入のお堂は、間口192センチ、奥行202センチです。中には高さ75センチ、屋根幅62センチ、間口48センチ、奥行20センチの厨子があり、その中には総高51センチ、像高43センチの円光背を負った金色の木造薬師如来立像が祀られています。左手には薬壺を持っています。

『国郡一統志』には、菅原神社の境内社の一つとして薬師堂が記してあることから、元々は神社の境内にあったものが、明治元年（1868）の神仏分離令により神社の外に移されたものと思われます。

祭日は1月8日です。



180. 法性山 聞得寺 (旧：法性山聞得寺) (所在 下田口区)

宗派は浄土真宗本願寺派で、本尊は阿弥陀如来です。

入母屋造瓦葺妻入の本堂には御拝口があります。

『甲佐町史』によると、寛永元年（1624）（『新甲佐町史』では宝永元年（1704））3月、熊本順正寺塔頭長安寺の二男貞元が、田口に一庵を結んだのが聞得寺の始まりで、嘉永5年（1852）8月には一代僧業の許可を受け、その後、庵を世襲しました。明治10年（1877）8月、永代庵室の公称を得て聞得庵と号しました。同12年（1879）8月寺号公称の許可を得て聞得寺と号した、とあります。



181. 下田口地藏堂 (所在 下田口区)

下田口公民館から約100m東にあります。

切妻造瓦葺平入のお堂は、間口162㌢、奥行192㌢で、中には二体の木造地藏菩薩立像が祀られています。一体は台座が高さ15㌢の蓮華台で、総高87㌢の一木造で両手は欠損しています。もう一体は像高80㌢、幅30㌢で両手両足が欠損しています。

この地藏尊の製作・建立時期等の詳細については不明です。地藏堂の横には石碑や石室の屋根石が残っています。



182. 田口小一領神社 (所在 下田口区)

下田口公民館の横にあります。

入母屋造瓦葺平入の本殿の奥には、ガラスの折り戸があり、中には二体の木造坐像の神像が祀られています。左が男神で総高40㌢、右は女神で総高35㌢、二体は高さ3㌢の畳の台座に鎮座し、和紙の衣を着衣しています。

『肥後国誌』には「小市明神社ノ由来」として「下田口にある叢祠なり祭神詳しならず」と記し、祭神は小市郎大納言藤原経家を祀ると言われています。一説では、鎮西八郎為朝が益城郡萬所を甲佐郷に押領されて退去される時に、長子の小一郎に対し、「汝興ふべきものなしは一領こそ伝ふべき千金なりとて鎧一領譲り与えられし」その名前にちなんで小一郎とも、また「これ一領」が訛って小市郎となったとも伝えられています。

祭日は12月10日です。



183. 下田口観音堂（所在 下田口区）

県道宇土甲佐線と県道御船甲佐線の五差路分岐点から約200m南西にあり、六地藏が同じ境内にあります。

切妻造瓦葺妻入のお堂は、間口284㌢、奥行284㌢で、東向きに建っています。木製の扉の中に総高67㌢、像高43㌢、円光背を負い、左手に蓮の花を持つ木造十一面観音菩薩坐像が祀られています。後世に赤茶・茶色等で彩色されました。



184. 下田口六地藏（所在 下田口区）

下田口観音堂の境内にあります。

六地藏の高さは250㌢、龕は58㌢で、陽刻された六体の地藏は総高16～17㌢、台座は5～9㌢です。

建立時期等は不明ですが、『国郡一統志』に記載されている「下田口の地藏」であると思われることから、少なくとも17世紀以前に建てられたと考えられます。塔身から読み取れる文字は、「法界萬霊」の文字と塔身に記されている明治36年（1903）再建の文字のみです。



185. 田原板碑（所在 田原区）

県道今吉野甲佐線沿いの甲佐町グリーンセンター入口沿いにあります。

板碑は高さ113㌢、最大幅100㌢、最大厚20㌢で、上部に月輪の中に釈迦如来を示すバクの種子を刻み、下部中央に「干時大永五天（1525）乙酉初春吉日」と刻み、複数の法名が彫られていることから、結衆板碑（逆修碑）であることがわかります。

「八代日記」には、大永3年（1523）3月25日阿蘇惟前が挙兵し、4月3日に勢田尾城（堅志田城）を奪い、甲佐に陣取ったと記しています。建立された頃は阿蘇惟豊と惟前の対立が激化していた時期です。村の人たちが日々の平和と安穏を願って建立したものと思われます。

なお、この板碑は甲佐町グリーンセンター造成時に発見され、現在地に移設されました。



186. 田原観音堂（所在 田原区）

田原消防格納庫の脇にあります。

切妻造銅板葺平入の青く彩色された反り屋根のお堂は、間口180㍺、奥行200㍺で、中の厨子は高さ124㍺、屋根幅78㍺、間口51㍺、奥行49㍺です。中には、総高74㍺、像高60㍺の石造十一面観音菩薩立像が祀られています。菩薩像の背面には「嘉永六年（1853）丑年二月」と刻まれています。

以前は1月17日と7月17日にお祭りが行われていましたが、現在は1月17日に持ち回りの当番の方と周辺の方によりお参りが行われています。なお、お堂は県道今吉野甲佐線拡幅工事に伴い、令和4年（2022）9月8日現在地へ移転されました。



187. 和田内天神社（所在 和田内区）

和田内公民館の隣にあります。

入母屋造瓦葺平入で本殿と拝殿が一体になっています。入口は道路側にあります。厨子は間口68㍺、奥行43㍺、高さ145㍺、屋根幅100㍺です。中には台座23㍺、像高36㍺の黒・金・緑等に彩色された木造菅原道真坐像が祀られています。

祭日は11月23日です。



188. 和田内阿弥陀堂（所在 和田内区）

和田内天神社の100㍺西にあります。

寄棟造瓦葺妻入のお堂は、間口199㍺、奥行193㍺で、中の厨子は間口60㍺、奥行33㍺、高さ81㍺です。中には総高59㍺、像高46.5㍺、台座は1.5㍺で舟形光背を負う金色の木造阿弥陀如来立像が祀られています。



189. 山伏塚 (所在 和田内区)

和田内区には山伏塚と呼ばれる石碑が二箇所あります。

写真右側は「親」と呼ばれ、和田内天神社より約200[㍎]西の個人宅の境界を跨いでいます。玉垣の中には高さ138[㍎]の石灯籠があり、竿部には「嘉永二年（1849）四月吉日」と刻まれています。その右には高さ55[㍎]の石柱があり、正面に「奉寄進」、左側面に「昭和六年（1931）六月二日」と刻まれています。

写真左側は「子」と呼ばれ、公民館横の十字路の約170[㍎]北の水田角地にあります。高さ72[㍎]と60[㍎]の二本の石柱が西に向かって建っており、一基には「嘉永二年（1849）四月吉日」と刻まれています。由緒等は不明です。



190. 府領観音堂 (旧：府領毘沙門堂) (所在 府領区)

府領公民館の斜め向かいにあります。

切妻造瓦葺平入のお堂は、間口310[㍎]、奥行292[㍎]です。正面の厨子は間口74[㍎]、奥行48[㍎]、高さ116[㍎]で、中には像高50[㍎]、台座16[㍎]の木造薬師如来坐像が祀られています。左側の厨子は間口50[㍎]、奥行50[㍎]、高さ87[㍎]で屋根と柱のみで壁はありません。中には総高60[㍎]、像高31[㍎]の木造十一面観音菩薩坐像が祀られています。右には木造阿弥陀如来坐像が祀られています。仏像とお堂内壁には黒い点が吹き付けたように広がっています。『甲佐町の文化財 第一集』では観音堂ではなく毘沙門天堂となっていますが、現在は毘沙門天はありません。



191. 府領若宮社 (所在 府領区)

府領公民館より約50[㍎]東にあります。

平成28年（2016）熊本地震で倒壊した鳥居に変わって新しい鳥居が再建されました。

厨子の高さは123[㍎]、間口79[㍎]、奥行57[㍎]の中に二体の神像が祀られています。左は像高37[㍎]の木造男神坐像で、右は像高34[㍎]の木造女神坐像で、朱・緑・青に彩色されています。

祭神は阿蘇若彦神、菅原道真、若姫神で文明5年（1473）の創建です。

平成28年（2016）熊本地震により被災しましたが、地元の方々によって修復されています。



192. 府領首塚（所在 府領区）

熊本バス府領バス停より約 200 ㍎北を左折した畑にあります。

縦 825 ㍎、横 213 ㍎、高さ 100 ㍎の塚の周りはコンクリートブロックで囲っています。

天正 8 年（1580）3 月に阿蘇大宮司氏の家臣の隈庄城主甲斐守昌（熊本市南区城南町）は薩摩（鹿児島県）を本拠とする島津氏と手を組み、阿蘇氏に反旗を翻しました。阿蘇惟将の家臣であった御船城主甲斐親直や早川城主早川（渡邊）越前守吉秀、甲佐（松尾）城主伊津野山城守正俊らは、惟将の命を受け、隈庄城を攻めました。これを「舞の原の合戦」といいます。首塚は、この戦いで亡くなった両軍の兵士の亡き骸を埋葬した場所です。

現在でもこの地は「首塚（くびづか）」または「塚畑（つかばたけ）」と呼ばれています。





